



環境構想学科は、人間の活動において生ずる環境問題の背景とそのメカニズムを科学的にとらえ、これからの地球のあり方を自然環境、都市環境、生活環境の視点から考える力を養い、その実現に向けて実践的に取り組む人材を育てます。このニュースレターNo.1では、環境構想学科の教育内容を紹介します。

環境構想学科の基盤演習は「体験型」が特徴

共通教育科目のアカデミックリテラシー教育「基盤演習」は全学科必修の科目です。環境構想学科では専門の学びにつながるような特色を持たせた内容にしています。

まずは教員の専門分野紹介、次に図書館の使い方を学び、いよいよ演習の始まりです。社会科学から自然科学まで多彩なテーマが用意されています。学生がテーマ選択をし、それぞれの学問分野にチャレンジします。もっとも特徴的なのは、どのテーマも「体験すること」を重視していることです。



今年のテーマ

- 新しい電気の買い方を考える
- 植物生育と光の関係
- 色は人体に影響を及ぼすか？
- サクラの生育環境調査
- 企業が環境の取組みに積極的なのはなぜか？
- 既製の構成方法を探る～分解して見える工夫を発見～
- 新聞の力を引き出そう～新聞紙で作る丈夫な皿～
- 建物など構造物の模型作成
- 身のまわりの放射線
- 身近な地域の景観分析

授業紹介① 環境と社会

1年生前期開講の「環境と社会」は、環境問題を知り、考えるうえでもっとも基礎となる知識、考え方を習得すると共に、環境問題が生ずる背景に何があり、どのような動きがあるかについて、経済・社会的側面から学びます。

4/25の授業では、「不都合な真実」を題材に地球温暖化の原因についてのグループワークをしました。学ぶ前の段階ですが、様々なキーワードが出てきました。それらの意味について、これから学び、理解を深めていきます。



地球温暖化の原因は？



これらの関係性は？



この授業では、eco検定の公式テキストを教科書として使用しています。

世界的な環境意識の高まりにともない、企業では複雑・多様化する環境問題を幅広く体系的に身に付けた人材の育成が欠かせなくなっており、現在、多くの企業がeco検定を導入しています。

本学科では、2年生をめどに受験し、在学中にエコピープルになることを目標としています。

授業紹介② 環境科学実習

「環境科学実習」はフィールドワークを通して、観測対象物や計測機器の取り扱いを学び、自分で観察や計測ができるようになることを達成目標としています。授業では、森林(植物)、動物、気象、土壌、河川などの観測を行います。また、学内で採取できるような身近な自然素材を材料に身の回りの物を作り、その活用方法を検討します。

森にはどのくらい木が生えている？
一本の木についている葉の量ってどのくらい？
実際に観測してみました



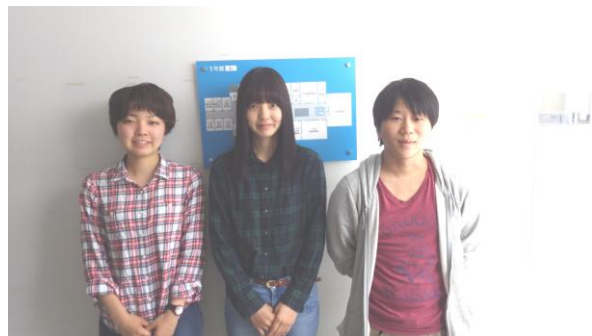
尚綱の森には、高さも太さも種類も違う木がたくさん生えています。どんな木がどの程度生えているかという情報は森の維持管理（手入れの仕方や利用の方法）を考える時に役立ちます。そして、二酸化炭素の吸収量や、蒸発散によって気温を下げる効果がどの程度あるのかなどを見積る時にも役立ちます。

環境活動紹介

環境系 NPO で長期インターンにチャレンジ

生活環境学科の3年生と2年生が、損保ジャパン日本興亜環境財団の「CSO ラーニング制度」を利用して、8ヶ月間のインターンシップを経験することになりました。

選考の結果、宮城県でのインターン生は9名、そのうち3名が生活環境学科の学生です。3人は、1年生から環境活動サークルFROGSに所属し、様々な活動を体験してきたメンバーです。1名はMELON（みやぎ・環境とくらし・ネットワーク）、2名は仙台いぐね研究会で活動させていただけます。



長期インターンにチャレンジする増田さん、阿部さん、小林さん

2015年度、ワケルキャンパスサポーター始動!!

ワケルキャンパスサポーターとは、仙台市環境局ごみ減量推進課が募集する大学内のゴミ減量・リサイクルの啓発活動を行う大学のサークルメンバーを指します。仙台圏の大学のワケキャンサポーター(代表)が集まり、新年度新入生向け啓発グッズの開発及び啓発活動や大学祭でのエコステーションの運営などに取組みます。

今年のワケキャンリーダーは、数ある大学の中から、本学環境構想学科1年生の枝松さんと鮎澤さんが就任しました。学内外での活躍に期待します。

まずは、6月17日に仙台市職員の方と尚絅学院大学にて「ごみ減量イベント」を行います。



ワケルキャンパスサポーターの二人

6年目を迎える「りんくう自然学習の杜」

本学科の阿留多伎先生が、設計や景観づくりに携わった「杜せきのした中央公園」は、「環境」をテーマとし、環境学習、体験学習の実践の場としての整備が行われています。その一貫で、土に親しみ、環境学習の実践の場としての農園や花壇などが設けられています。「りんくう自然学習の杜」では、この公園を地域住民コミュニティ形成の場として2010年より活用しています。農園では毎年ジャガイモやサツマイモ、トウモロコシなどの栽培を楽しんでいます。また公園等愛護団体として「花いっぱいによる美しいふるさとづくり」交付金を受けラベンダーやヒマワリなどを植栽し、また公園清掃、除草などの活動も行っています。



ジャガイモ(種芋)植え

第2回 東北の環境を考える 高校生のためのエコツアー

河北新報社の「今できることプロジェクト」とのコラボによる第2回「高校生のためのエコツアー」の募集が始まりました。

高校生に「環境」と「震災復興」の視点から東北の「これから」を考えてもらいたいという思いから、環境構想学科が企画しました。

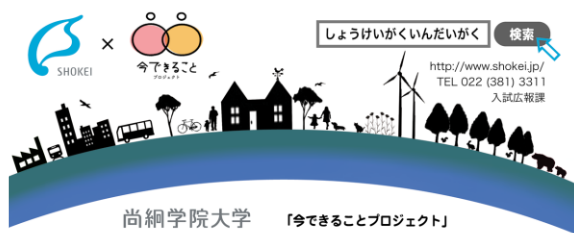
エコツアー1日目は、津波被害を受けた地域、企業、行政の復興の取組みについてお話をうかがい、施設を見学します(キリンビール仙台工場、南蒲生集会所、(株)みちさきの野菜工場、津波避難タワー)。

2日目は、川崎町の森林の維持管理とバイオマス利用の取組みを見学します。1日目の夜と2日目の午後には、高校生と大学生がツアーの振り返りをし、これからの東北について考えます。

環境に関心のある高校生のみなさんの参加をお待ちしています。申し込み締め切りは、7月10日(金)です。

環境構想学科を志望していなくても構いません。
学年を問わず、「環境」や東北地域を考えるきっかけに
していただければという趣旨で募集します。

詳しくは、大学HPをご覧ください。



第2回 高校生のためのエコツアー 参加者募集!

今年の夏「見て、知って、体験して」東北の環境を考えよう

- 日時: 2015年8月10日(月)~11日(火) 1泊2日
- 募集人数: 高校生15名(学年は問いません。学校単位ではなく個人で申込みをして下さい。応募者多数の場合は応募作文により選びます。)
- 参加費: 無料
(宿泊費、食費を含むツアー経費全額無料。ただし仙台駅までの往復交通費は自己負担。)
- 応募方法: 環境構想学科のホームページで詳細を確認の上、裏面の申込書と作文を7月10日(金)までに入試広報課へ送付。応募先、送付方法は裏面にあります。
【作文課題】「私が守りたい東北の自然」「次の世代に伝えたい地域文化」「大切にしたいまち」の3つのテーマより1つを選び、あなたの考えや思いを300~400字で記述。優秀な作文は「優秀賞」を授与し、報告冊子に掲載。

エコツアー 日程

大学生・大学教員も一緒に参加!

- 【1日目】 JR仙台駅9時30分集合 ▶ キリンビール仙台工場(震災時の様子と復興プロジェクト) ▶ 南蒲生集会所(復興まちづくりと原木の再生) ▶ 昼食 ▶ 株式会社みちさき(津波被害地で6次産業化に取り組む野菜工場) ▶ 津波避難タワー ▶ 秋保温泉 ホテルに宿泊(参加高校生と尚綱学院大学生とのディスカッション・懇話)
 - 【2日目】 ホテル ▶ 川崎町の山林バイオマス利用現場 ▶ 昼食 ▶ 尚綱学院大学(名取キャンパス見学・まどめのディスカッション) ▶ JR仙台駅16時30分解散 エコツアーの活動は河北新報紙面に掲載されます。
- 参加者として決定した方へは7月中(7月20日以降)に郵便でご連絡いたします。

栗原の魅力を全力で伝えます 今できることプロジェクト×栗原市

尚綱学院大学は、今年度、河北新報社「今できることプロジェクト」×栗原市を応援することとなりました。栗原市の魅力を、学生による情報発信を通して多くの方々にお伝えします。

6月7日の栗原研修には18名の学生が参加し、栗原市の見どころを取材しました。若柳地織の千葉孝機業場、「むげよすぎ」の狩野さんの田んぼと長屋門、旧くりはら田園鉄道若柳駅、ミニ畳づくり体験をした只見工業所、餅つき体験をした古民家「岩松」など、栗原の文化と産業に触れた一日でした。

このプロジェクトには環境構想/生活環境学科の学生が多く参加しています。建築や衣服、環境などの学びを活かし、栗原という地域の魅力を存分に伝えていきます。取組みの様子は、大学HPをご覧ください。



100年前の豊田式鉄製小幡動力織機を前に若柳地織のお話を聞く



狩野さんの田んぼでコメ作りについて取材する学生



栗原の大切な宝～長屋門～